インドネシア中等日本語教師のオンライン授業の実態について

村上奈未（国際交流基金ジャカルタ日本文化センター）
Lussy Novarida Ridwan（インドネシア中等日本語教師会）

About the situation of online Japanese classes for Secondary Japanese Language Teachers in Indonesia.

Nami MURAKAMI, The Japan Foundation, Jakarta
Lussy Novarida Ridwan, Indonesia Japanese Language Teachers Association

要旨：新型コロナウイルスによりインドネシアの中等教育機関は対面授業からオンライン授業へと切り替わることとなり現場の日本語教師は対応を行ってきた。本稿ではインドネシアの中等教育機関の日本語教師を対象にオンライン授業に関する調査を実施した。その結果、オンライン授業を実施するまでに 3 ヶ月以上の時間がかかっており導入は容易ではなかったことが分かった。ツールは無料で使いやすい WhatsApp、Google Classroom、Zoom が使用されていた。また半数の教師が対面授業に戻ることを期待していたがオンラインツールを活用しながら対面授業を行うことは効果的と考えている教師が一定数いた。

キーワード：インドネシア、中等教育、オンライン授業

1. はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大によりインドネシアでは教育文化省の要請で中等教育機関において通学禁止の措置が取られることとなった。これにより高校での対面授業が中断され、オンライン授業へと切り替わり、日本語の授業も同様の対応が取られ現場の中等日本語教師はオンラインで日本語を教えることとなった。本稿ではコロナ渦においてインドネシアの高校で日本語を教える教師がオンライン授業をどのように行い、現場で対応したのか実態を把握するために調査を行った。

2. 調査の概要

2.1 調査概要

調査は、2020 年 12 月 28 日（月）～2021 年 1 月 6 日（水）にかけてインドネシアの中等教育機関で日本語を教える教師を対象にオンライン授業実施に関するアンケート調査を行った。アンケートはインドネシア語と日本語の併記で作成し、Google Forms で実施した。調査項目は、オンライン授業で使用しているオンラインツールや導入理由、オンライン授業が可能になるまでの期間、授業時間の変化、今後のオンライン授業の継続など 10 項目について尋ねている。回答は項目によって多項目選択式と自由記述がある。調査の結果、251 名から回答を得た。

3.　結果

3.1　オンライン授業の導入期間

図 1 はアンケート調査の「オンライン授業の導入期間」についての回答である。160 名（63.7%）の教師がオンライン授業を導入するまで 3 ヶ月以上の時間を有したことが分かった。また 1 ヶ月未満でオンライン授業が可能となったと回答した教師は 57 名（22.7%）であった。残りの 31 名（12.4%）は 1 ヶ月～3 ヶ月の時間を有していることが分かった。オンライン授業に切り替わることになったが教師が ICT の知識を持ち合わせてないことやオンライン授業をどのように導入するのか決定するまでに時間がかかり、オンライン授業の切り替えは容易ではなかったと考えられる。また、オンライン授業に切り替わった事で授業時間に変化がみられた。回答者のうち 222 名（88.4%）は授業時間が減っており、その半数の教師（44.6%）が 1 コマ 45 分から 30 分に短縮していることが分かった。オンライン授業の授業時間は学校ごとに裁量が委ねられており、その対応は学校ごとに異なってくる。例えばこれまで週に 2 回だった授業をオンライン授業では週に 1 回に変更したり、数クラス合同で授業を行ったりして対応をしている学校もある。インターネット環境が十分では地域やディバイスを持ち合わせていない生徒もおり、地域や学校で教師と生徒に配慮した対策がとられたと考えられる。

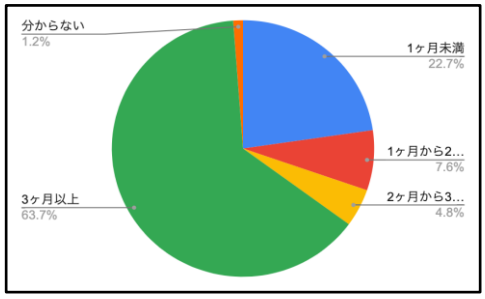

図 1：オンライン授業の導入期間

4.2　オンライン授業で使用しているツールと教材

オンライン授業で使用しているオンラインツールと導入の理由は、多項目選択式で回答してもらった。その結果、WhatsApp が 191 名（76%）、Google Classroom が 183 名（72%）、Zoom を 125 名（49%）が使用している事が分かった。また、84%の教師が 1 つだけでなく複数のオンラインツールを組み合わせて使用していた。導入理由として「使いやすい」が 208 名（82.8%）、「無料」が 99 名（39.4%）、「ツールが多い」が 97 名（38.6%）挙げられた。WhatsApp はインドネシアでは日常的に使用されており教師や生徒たちにとって身近で使いやすいと考えられる。また Google Classroom は無料のオンラインツールであることやクラスや教科ごとに管理しやすく、学習管理ツールとして導入がしやすかったと考えられる。

また授業ではパワーポイント（203 名）、ビデオ教材（177 名）、オーディオ（141

名）、プリント（55 名）を使用していることが分かった。インドネシア高校カリキュラム準拠の教科書『にほんご☆キラキラ』には授業用パワーポイントと音声ファイルが提供されており（古内 他,2017）、この教科書を使用している教師はオンライン授業で活用していたと考えられる。また、教師がビデオを自作しアップロードしているケースもあり、生徒がいつでも学習環境にアクセスできるよう工夫をしていると考えられる。

4.3　中等日本語教師の学びの場

オンライン授業を行うためにどんな勉強をしたかという質問では「インターネットで調べた」が 185 名（73.7%）、「同僚と協力した」が 176 名（70.1%）、「オンライン研修に参加した」が 143 名（56.9%）という結果になった。これからの結果からオンライン授業の対応が必要な教師たちはインターネットで調べたり、研修に参加したりと自ら積極的に行動したことが読み取れる。またインドネシアには MGMP（Musyawarah Guru Mata Pelajaran）と呼ばれる地域の教師会があり教師間のネットワークが既に形成されている。コロナ禍の不測の事態においても教師間で情報交換を行ったり協力したりしやすい環境であったと考えられる。

4.4　オンライン授業の継続性について

オンライン授業の継続については、119 名（47.2%）が「対面授業の方が良い」48 名（19%）が「オンライン授業の方がいい」84 名（33.4%)が「分からない」と回答した。「対面授業が良い」と回答した主な理由は①効果的な学習が提供できること、②生徒の理解を確認しながら授業が進められること、③教師と生徒の関係性を構築しやすいこと、④ディバイスやインターネットが制限されている点が挙げられていた。また完全に対面に戻るのではなくオンラインツールを組み合わせながら授業を進めていくこと考えている回答者もいた。「オンライン授業がいい」と回答した理由では①学習の管理のしやすさ、②課題や資料の提供に便利といったことが挙げられた。同様に対面授業との組み合わせが良いとの回答も見られ、対面授業の補完としてオンラインツールを活用していくことに肯定的な意見が見られた。また「わからない」と回答した理由では①政府や学校の方針に従うという意見がよくみられ、オンライン授業を続けるかどうかは方針次第という結果となった。

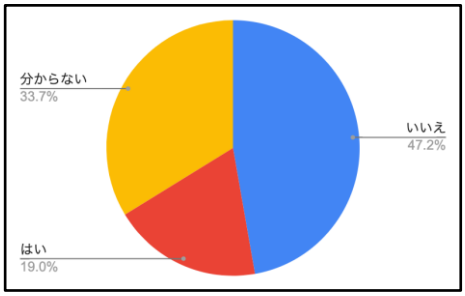

図 2：オンライン授業の継続性について

4. おわりに

今回の調査ではコロナ禍においてインドネシアの中等日本語教師はどのような対応を行ったのか、その実態を把握するためにアンケート調査を行い、結果を分析した。アンケートの結果から、インドネシアの高校日本語の授業ではオンライン授業を実施するまで回答者の半数以上が 3 ヶ月以上の時間を有しており導入は容易ではなかったことが分かった。授業時間については 8 割を超える教師が減少したと回答していた。インターネット環境やディバイス環境が不安定であるインドネシアにおいて教師と生徒の双方に負担の少ない形式でのオンライン授業が実施されたと考えられる。またオンライン授業で使用するツールは複数活用していることが分かった。特に WhatsApp と Google Classroom はその利便性やコストがかからない点からオンライン授業で導入されていることが分かった。オンライン授業の継続性については対面授業に戻ることを期待している教師が半数だったが、オンラインツールと組み合わせて対面授業を行うことは効果的と考えている教師が一定数いた。これまで対面授業しか行っていなかった教師にとってはオンラインを活用することに対する意識変化が起きたと考えられる。

今後インドネシアの高校日本語の授業においてオンライン授業が継続されることになる場合、現場に合わせ持っているリソースを最大限活用していくことが必要であると考える。広域のインドネシアで一律に同じような環境を整えていくことは容易ではないが、教師会のネットワークを活用し情報交換や実践の共有を行うことや地域のオンライン環境を整えていくことはその一歩になると考えられる。また既に行っている学校もあるが e-learning の開発を行い、生徒がどこにいても学べる環境を作ることも今後必要になってくると考える。

参考文献

古内綾子・三本智哉・五十嵐裕佳・八田直美・エフィ ルシアナ. 2017.「インドネシア国家カリキュラム準拠高校教科書『にほんご☆キラキラ』の開発－態度面のコンピテンシーの育成と日本語学習の統合を目指して－」『国際交流基金日本語教育紀要』第 13 号.87-100.国際交流基金

インドネシア共和国教育文化大臣省令 2021 年第 15 号「新型コロナウイルス蔓延による緊急事態の際に自宅で学習するためのガイドライン（PEDOMAN PENYELENGGARAAN BELAJAR DARI RUMAH DALAM MASA DARURAT PENYEBARAN CORONA VIRUS DISEASE (COVID-19) ）」、<https://www.kemdikbud.go.id/main/blog/2020/05/se-sesjen-pedoman-penyelenggaraan-belajar-dari-rumah-dalam-masa-darurat-penyebaran-covid19 閲覧日：2021 年 6 月 13 日）>